

重点取組分野	令和 元 年度		総括
	具体的取組	自己評価結果	
豊かな心	①道徳的価値について自ら考えるきっかけとなるように、全教科領域において積極的な道徳教育に取り組む。②生活科や総合的な学習の時間を通して、地域とのコミュニケーション力を高め、社会の一員としての豊かな体験ができるような活動に取り組む、自尊感情や人権意識を高める。	①全教科領域において、積極的に道徳教育に取り組む、自尊感情や人権意識を高められるようにしていく。②生活科・総合的な学習の時間においては、地域とのコミュニケーションを十分に図ることができている。今後は年間計画を立てるときに、中心に据え、更に高めていきたい。	B
生きてはたらく知	①一人ひとりの思いや願いや問いを授業の中でみとり、それらを生かした授業づくりに取り組む。②新たな思いや願いが生まれる探究的な学習過程を工夫し、振り返りから次の活動の方向性を生み出すことができる授業づくりに取り組む。	①生活科・総合的な学習の時間では概ね達成できている。次年度は、他教科・領域において育てたい資質能力を明確にしながら授業作りを進めていきたい。②研究を通して、探究的な学習を創造しようとする取り組みができていく。学校全体で取り組むためにも6年間を見通し、資質能力の系統性を明確にしていく。	B
健やかな体	①体を動かす楽しさや喜びを味わうことを通して、生涯にわたって体を動かす機会の増大を目指し、体力の向上を図ることができるようにする。②体をつくる食べ物の大切さや働きについて理解し、自ら健康で安全な生活を送ることができるように、年間を通した計画的な食育に取り組む。	①校庭が狭く、体力の向上に向けてはさらなる取り組みや工夫が必要である。まずは、年間を通して1つの運動に取り組むことができるようにしていきたい。②栄養教諭を中心に、年間を通して計画的に取り組むことができた。生活科など各教科・領域に広げていくことで更に可能性を広げることができる。	C
特別支援教育	①全ての子どもにあらゆる教育の場で適切な支援・指導や必要な合理的配慮を行うことができるように、校内支援体制の充実を図る。②日本語指導が必要な児童の状況などに関する研修を行い、校内の支援体制の構築を図る。	①担任以外の教員が、全児童に目を配り必要な支援を進めている。今後は、特別支援コーディネーターを中心としたケース会議などを充実させ、全児童に対する更に細やかな支援を行えるような体制づくりに取り組む。②国際教室・日本語教室ともに充実しており、各担任との連携も十分に図られている。	A
地域連携・学校運営会議	①学校と地域が目標を共有し、連携・協働しながら社会全体で子どもを育てていくことができるようにして、学校が地域におけるまちづくりの中心的な役割になるようにします。②学校運営会議の目的や役割について、教職員や保護者、地域の理解を深めることができるように情報や取組を発信する。	①生活科・総合的な学習の時間に対して、地域はとて協力的である。今後も地域と学校が継続的に連携していくことが必要である。②今年度始めたばかりの学校運営会議であり、共通理解を図ることができていない。目的や役割を明確にしながら本格的に活動を進めていく必要がある。	B
新たな価値を創造する学び	①教育課程とSDGsの関係性を明確にし、更に学校が活性化するためのカリキュラムづくりに取り組む。②校内のICT機器を活用した授業支援や、タブレット端末を活用した取組を実践し、ICTを効果的に活用した授業づくりに取り組む。	①全教育課程においてSDGsを意識できていないことが現状であり、職員による偏りも大きい。研究の1つと捉え、広げていくことが課題である。②校内のICT環境は充実してきている。プログラミング実施に伴い、今年度は全教職員、全児童がICTを活用して学習を進めることができるように取り組んでいく。	C
学校設備の充実	①子どもの安全・安心の確保を最優先し、子どもが快適に教育を受けられる環境を整える。②教職員が快適に業務に取り組むことができる環境を整える。	①日常点検をもとに、修繕活動を行うことができた。子どもが快適に教育を受けられる環境を整える戦略等を全職員が考え、営繕部が計画的に実行できるようにしていく。②限られた空間・予算の中で少しずつ充実してきている。教職員の意識改革も進んでいて、今後も取り組みを進めていく。	B
いじめへの対応	①児童の気持ちに寄り添い、その思いをしっかりと受け止める力の向上を図るとともに、誰もが安心して参加できる授業づくりに取り組む。②児童支援体制の充実を図り、SSWやスクールカウンセラーなどの専門家を活用したチームアプローチの体制を整備する。	①きめ細やかに児童を見取っており、いじめの早期解決につながることも多い反面、不登校児童が増えている現状がある。授業作りには必ず必要がある。②対策委員会を開催したり、アンケートや意識調査をしたりすることで、早い段階で気持ち対策に取り組んでいる。今後は、カウンセラーやSSW等のより専門的な意見も活用して取り組んでいく。	A
人材育成・組織運営(働き方改革)	①全教職員が、学校の置かれた状況の変化に対応し、各学校のよさを生かしながら学校をつくっていくために、キャリアステージに応じた資質・能力を身に付けることができるようにします。②学校や教職員の担うべき業務の適正化を図り、また、教職員のワーク・ライフ・バランスの推進を行い、先を見据えた業務の進め方への意欲の向上を図る。	①メンターチーム・学年主任会・教務会を更に充実させ、キャリアステージに応じた資質能力を獲得できるようにしていく。②働き方改革も推進され、不要な業務を削減できている。業務の適正化(負担量)は今後の課題である。また、会議を減らす取り組みや、年休を推奨する取り組みは働きやすさにつながっている。いかに会議を減らすか、必要を確保し共有できるようにしていく。	B
ブロック内評価後の気付き	本校児童の特徴として、親しみやすさや子供らしさが挙げられた。地域の方が日頃から児童の教育活動に協力的であり、児童がまちの中で安心して過ごすことができている表れであると考えている。また、地域の声として、学校とともに多くの活動にしていきたいという意見も数多く挙げられている。次年度は、学校が中心となって活動をスタートさせ、徐々に地域の活動として根付いていくように取り組みを進めていく。	ブロック内の授業参観や教員の交流などはほとんど行うことができなかった。教務主任同士で連携を深め、情報を交換した。今後は、合同授業研などを通して、ブロック内で児童に身に付けさせたい力を明確にし、共通の目指す児童像をもつことができるようにしていく。	
学校関係者評価	本校児童の特徴として、親しみやすさや子どもらしさが挙げられた。地域の方が日頃から児童の教育活動に協力的であり、児童がまちの中で安心して過ごすことができている表れであると考えている。また、地域の声として、学校とともに多くの活動にしていきたいという意見も数多く挙げられている。次年度は、学校が中心となって活動をスタートさせ、徐々に地域の活動として根付いていくように取り組みを進めていく。	・学校運営協議会委員に学校の現状を書面で伝えたい。	
中期取組目標振り返り	研究を通して、本校が大切にしてきたことは充実している。今年度は学校運営協議会を立ち上げ、更に地域と一体となった教育を進めていくことを目指している。学校・保護者・地域が一体となって子どもたちを教育できる環境作りを努めていきたい。また、新たな価値を創造する学びについては、今年度から本格的に取り組むを始めた。中心となっている教職員から、全職員へと広げていく必要がある。働き方改革を進めながら全職員が自分の得意な面を生かして活躍できる学校をつくってきたい。	地域との関わりは減ったものの、研究を通して、本校が大切にしてきたことは充実している。PTA改革、学校運営協議会の活動等を通して、地域と一体となった教育の第一歩を踏み出すことができた。次年度は、学校・保護者・地域が一体となって子どもたちを教育できる環境作りを努めていきたい。また、SDGsやICTの活用など新たな価値を創造する学びについては、少しずつ全職員へと広がっているが課題も多い。より一層、働き方改革を進め、全職員が自分の得意な面を生かして活躍できる学校をつくってきたい。	

重点取組分野	令和 2 年度		総括
	具体的取組	自己評価結果	
豊かな心	①道徳的価値について自ら考えるきっかけとなるように、全教科領域において積極的な道徳教育に取り組む。②生活科や総合的な学習の時間を通して、地域とのコミュニケーション力を高め、社会の一員としての豊かな体験ができるような活動に取り組む、自尊感情や人権意識を高める。	①コロナ禍と言うこともあり、自尊感情を高めたり、差別意識を無くしたりすることなど、全教科領域において進めた。②生活科や総合的な学習の時間において、地域と関わるのが難しかったが、豊かな体験を取り入れ、個々を大切に活動を目指して取り組んだ。	B
生きてはたらく知	①一人ひとりの思いや願いや問いを授業の中でみとり、それらを生かした授業づくりに取り組む。②新たな思いや願いが生まれる探究的な学習過程を工夫し、振り返りから次の活動の方向性を生み出すことができる授業づくりに取り組む。	①授業研究を中心に、一人一人の個に焦点を当て、個の思いが活動計画に生かされるように単元を構成した。②子どもの振り返りをノートや発言などから見取ることに重点を置き、子ども主導の授業づくりに取り組んだ。	A
健やかな体	①体を動かす楽しさや喜びを味わうことを通して、生涯にわたって体を動かす機会の増大を目指し、体力の向上を図ることができるようにする。②体をつくる食べ物の大切さや働きについて理解し、自ら健康で安全な生活を送ることができるように、年間を通した計画的な食育に取り組む。	①コロナ禍と言うこともあり、体を動かす機会は減ったが、年間2回の縄跳び大会や、体育の学習の内容を工夫することができるようにする。②体をつくる食べ物の大切さや働きについて理解し、自ら健康で安全な生活を送ることができるように、年間を通した計画的な食育に取り組む。	B
特別支援教育	①全ての子どもにあらゆる教育の場で適切な支援・指導や必要な合理的配慮を行うことができるように、校内支援体制の充実を図る。②日本語指導が必要な児童の状況などに関する研修を行い、校内の支援体制の構築を図る。	①学年ブロックで毎月児童理解を行い、チームで適切な支援・指導を行う体制づくりに努めた。②外国につながる児童の増加に伴い、全教職員で研修を行い、現状や課題を共有することができた。	A
地域連携・学校運営会議	①地域と目標を共有し、連携しながら社会全体で子どもを育てていくことができるようにして、学校が地域におけるまちづくりの中心的な役割になるようにします。②学校運営会議の目的や役割について、教職員や保護者、地域の理解を深めることができるように情報や取組を発信する。	①コロナ禍と言うこともあり、生活科・総合的な学習の時間における地域との関わりは難しくなった。②学校運営協議会は紙面で開催した。保護者や地域のボランティア制度を確立することができ、まち全体で子どもたちの育ちを見守っていくという基盤を創った。	B
新たな価値を創造する学び	①教育課程とSDGsの関係性を明確にし、更に学校が活性化するためのカリキュラムづくりに取り組む。②校内のICT機器を活用した授業支援や、タブレット端末を活用した取組を実践し、ICTを効果的に活用した授業づくりに取り組む。	①SDGsを広めるために、教職員が一丸となって活動に取り組むことができた。②緊急事態宣言化において、学校休業期間中にICTを活用した授業のあり方や、ロイノートの活用など取り組み始めたが、ハード面ソフト面ともにまだ課題が多くある。	B
学校設備の充実	①子どもの安全・安心の確保を最優先し、子どもが快適に教育を受けられる環境を整える。②教職員が快適に業務に取り組むことができる環境を整える。	①児童の目線に立った修繕活動を続けている。営繕部が計画的に取り組むことができるようになってきた。②教職員の業務に関する意識改革は進んでいる。	B
いじめへの対応	①児童の気持ちに寄り添い、その思いをしっかりと受け止める力の向上を図るとともに、誰もが安心して参加できる授業づくりに取り組む。②児童支援体制の充実を図り、SSWやスクールカウンセラーなどの専門家を活用したチームアプローチの体制を整備する。	①きめ細やかに児童を見取っており、いじめの早期解決につながることも多い。休業期間があり、不登校児童が増えている。新しい課題に対応できる組織作りを進めている。②対策委員会を開催したり、意識調査をしたりすることで、早い段階で気持ち対策に取り組んだ。カウンセラーやSSWとの連携も図ることができた。	B
人材育成・組織運営(働き方改革)	①全教職員が、学校の置かれた状況の変化に対応し、各学校のよさを生かしながら学校をつくっていくために、キャリアステージに応じた資質・能力を身に付けることができるようにします。②学校や教職員の担うべき業務の適正化を図り、また、教職員のワーク・ライフ・バランスの推進を行い、先を見据えた業務の進め方への意欲の向上を図る。	①メンターチーム・学年主任会・教務会を更に充実させ、キャリアステージに応じた資質能力を獲得できるようにしていく。②働き方改革も推進され、不要な業務を削減できている。会議の時間を短くした上で、必要な情報が共有できるようにするかが今後の課題である。	B
ブロック内評価後の気付き	本校児童の特徴として、親しみやすさや子供らしさが挙げられた。地域の方が日頃から児童の教育活動に協力的であり、児童がまちの中で安心して過ごすことができている表れであると考えている。また、地域の声として、学校とともに多くの活動にしていきたいという意見も数多く挙げられている。次年度は、学校が中心となって活動をスタートさせ、徐々に地域の活動として根付いていくように取り組みを進めていく。	ブロック内の授業参観や教員の交流などはほとんど行うことができなかった。教務主任同士で連携を深め、情報を交換した。今後は、合同授業研などを通して、ブロック内で児童に身に付けさせたい力を明確にし、共通の目指す児童像をもつことができるようにしていく。	
学校関係者評価	本校児童の特徴として、親しみやすさや子どもらしさが挙げられた。地域の方が日頃から児童の教育活動に協力的であり、児童がまちの中で安心して過ごすことができている表れであると考えている。また、地域の声として、学校とともに多くの活動にしていきたいという意見も数多く挙げられている。次年度は、学校が中心となって活動をスタートさせ、徐々に地域の活動として根付いていくように取り組みを進めていく。	・学校運営協議会委員に学校の現状を書面で伝えたい。	
中期取組目標振り返り	研究を通して、本校が大切にしてきたことは充実している。今年度は学校運営協議会を立ち上げ、更に地域と一体となった教育を進めていくことを目指している。学校・保護者・地域が一体となって子どもたちを教育できる環境作りを努めていきたい。また、新たな価値を創造する学びについては、今年度から本格的に取り組むを始めた。中心となっている教職員から、全職員へと広げていく必要がある。働き方改革を進めながら全職員が自分の得意な面を生かして活躍できる学校をつくってきたい。	地域との関わりは減ったものの、研究を通して、本校が大切にしてきたことは充実している。PTA改革、学校運営協議会の活動等を通して、地域と一体となった教育の第一歩を踏み出すことができた。次年度は、学校・保護者・地域が一体となって子どもたちを教育できる環境作りを努めていきたい。また、SDGsやICTの活用など新たな価値を創造する学びについては、少しずつ全職員へと広がっているが課題も多い。より一層、働き方改革を進め、全職員が自分の得意な面を生かして活躍できる学校をつくってきたい。	

重点取組分野	令和 3 年度		総括
	具体的取組	自己評価結果	
豊かな心	①道徳的価値について自ら考えるきっかけとなるように、全教科領域において積極的な道徳教育に取り組む。②生活科や総合的な学習の時間を通して、地域とのコミュニケーション力を高め、社会の一員としての豊かな体験ができるような活動に取り組む、自尊感情や人権意識を高める。	①子どもたちが、充実した体験を繰り返す中で、願いに近づいたという実感がもてる授業づくりに取り組む。②子ども一人ひとりが工夫できる場を作り、自分の資質・能力を授業の中で発揮できる授業づくりに取り組む。	
生きてはたらく知	①一人ひとりの思いや願いや問いを授業の中でみとり、それらを生かした授業づくりに取り組む。②新たな思いや願いが生まれる探究的な学習過程を工夫し、振り返りから次の活動の方向性を生み出すことができる授業づくりに取り組む。	①体を動かす楽しさや喜びを味わうことを通して、生涯にわたって体を動かす機会の増大を目指し、体力の向上を図ることができるようにする。②体をつくる食べ物の大切さや働きについて理解し、自ら健康で安全な生活を送ることができるように、年間を通した計画的な食育に取り組む。	
健やかな体	①体を動かす楽しさや喜びを味わうことを通して、生涯にわたって体を動かす機会の増大を目指し、体力の向上を図ることができるようにする。②体をつくる食べ物の大切さや働きについて理解し、自ら健康で安全な生活を送ることができるように、年間を通した計画的な食育に取り組む。	①全ての子どもにあらゆる教育の場で適切な支援・指導や必要な合理的配慮を行うことができるように、校内支援体制の充実を図る。②日本語指導が必要な児童の状況や支援などに関する研修を行い、校内の支援体制のさらなる構築を図る。	
特別支援教育	①全ての子どもにあらゆる教育の場で適切な支援・指導や必要な合理的配慮を行うことができるように、校内支援体制の充実を図る。②日本語指導が必要な児童の状況などに関する研修を行い、校内の支援体制の構築を図る。	①地域と目標を共有し、連携しながら社会全体で子どもを育てていくことができるようにして、学校が地域におけるまちづくりの中心的な役割になるようにします。②学校運営会議の目的や役割について、教職員や保護者、地域の理解を深めることができるように情報や取組を発信する。	
地域連携・学校運営会議	①学校と地域が目標を共有し、連携・協働しながら社会全体で子どもを育てていくことができるようにして、学校が地域におけるまちづくりの中心的な役割になるようにします。②学校運営会議の目的や役割について、教職員や保護者、地域の理解を深めることができるように情報や取組を発信する。	①教育課程とSDGsの関係性を明確にし、更に学校が活性化するためのカリキュラムづくりに取り組む。②校内のICT機器を活用した授業支援や、タブレット端末を活用した取組を実践し、ICTを効果的に活用した授業づくりに取り組む。	
新たな価値を創造する学び	①教育課程とSDGsの関係性を明確にし、更に学校が活性化するためのカリキュラムづくりに取り組む。②校内のICT機器を活用した授業支援や、タブレット端末を活用した取組を実践し、ICTを効果的に活用した授業づくりに取り組む。	①子どもの安全・安心の確保を最優先し、子どもが快適に教育を受けられる環境を整える。②教職員が快適に業務に取り組むことができる環境を整える。	
学校設備の充実	①子どもの安全・安心の確保を最優先し、子どもが快適に教育を受けられる環境を整える。②教職員が快適に業務に取り組むことができる環境を整える。	①児童の気持ちに寄り添い、その思いをしっかりと受け止める力の向上を図るとともに、誰もが安心して参加できる授業づくりに取り組む。②児童支援体制の充実を図り、SSWやスクールカウンセラーなどの専門家を活用したチームアプローチの体制を整備する。	
いじめへの対応	①児童の気持ちに寄り添い、その思いをしっかりと受け止める力の向上を図るとともに、誰もが安心して参加できる授業づくりに取り組む。②児童支援体制の充実を図り、SSWやスクールカウンセラーなどの専門家を活用したチームアプローチの体制を整備する。	①全教職員が、学校の置かれた状況の変化に対応し、各学校のよさを生かしながら学校をつくっていくために、キャリアステージに応じた資質・能力を身に付けることができるようにします。②学校や教職員の担うべき業務の適正化を図り、また、教職員のワーク・ライフ・バランスの推進を行い、先を見据えた業務の進め方への意欲の向上を図る。	
人材育成・組織運営(働き方改革)	①全教職員が、学校の置かれた状況の変化に対応し、各学校のよさを生かしながら学校をつくっていくために、キャリアステージに応じた資質・能力を身に付けることができるようにします。②学校や教職員の担うべき業務の適正化を図り、また、教職員のワーク・ライフ・バランスの推進を行い、先を見据えた業務の進め方への意欲の向上を図る。	本校児童の特徴として、親しみやすさや子どもらしさが挙げられた。地域の方が日頃から児童の教育活動に協力的であり、児童がまちの中で安心して過ごすことができている表れであると考えている。また、地域の声として、学校とともに多くの活動にしていきたいという意見も数多く挙げられている。次年度は、学校が中心となって活動をスタートさせ、徐々に地域の活動として根付いていくように取り組みを進めていく。	
ブロック内評価後の気付き	本校児童の特徴として、親しみやすさや子供らしさが挙げられた。地域の方が日頃から児童の教育活動に協力的であり、児童がまちの中で安心して過ごすことができている表れであると考えている。また、地域の声として、学校とともに多くの活動にしていきたいという意見も数多く挙げられている。次年度は、学校が中心となって活動をスタートさせ、徐々に地域の活動として根付いていくように取り組みを進めていく。	本校児童の特徴として、親しみやすさや子どもらしさが挙げられた。地域の方が日頃から児童の教育活動に協力的であり、児童がまちの中で安心して過ごすことができている表れであると考えている。また、地域の声として、学校とともに多くの活動にしていきたいという意見も数多く挙げられている。次年度は、学校が中心となって活動をスタートさせ、徐々に地域の活動として根付いていくように取り組みを進めていく。	
学校関係者評価	本校児童の特徴として、親しみやすさや子どもらしさが挙げられた。地域の方が日頃から児童の教育活動に協力的であり、児童がまちの中で安心して過ごすことができている表れであると考えている。また、地域の声として、学校とともに多くの活動にしていきたいという意見も数多く挙げられている。次年度は、学校が中心となって活動をスタートさせ、徐々に地域の活動として根付いていくように取り組みを進めていく。	本校児童の特徴として、親しみやすさや子どもらしさが挙げられた。地域の方が日頃から児童の教育活動に協力的であり、児童がまちの中で安心して過ごすことができている表れであると考えている。また、地域の声として、学校とともに多くの活動にしていきたいという意見も数多く挙げられている。次年度は、学校が中心となって活動をスタートさせ、徐々に地域の活動として根付いていくように取り組みを進めていく。	
中期取組目標振り返り	研究を通して、本校が大切にしてきたことは充実している。今年度は学校運営協議会を立ち上げ、更に地域と一体となった教育を進めていくことを目指している。学校・保護者・地域が一体となって子どもたちを教育できる環境作りを努めていきたい。また、新たな価値を創造する学びについては、今年度から本格的に取り組むを始めた。中心となっている教職員から、全職員へと広げていく必要がある。働き方改革を進めながら全職員が自分の得意な面を生かして活躍できる学校をつくってきたい。	本校児童の特徴として、親しみやすさや子どもらしさが挙げられた。地域の方が日頃から児童の教育活動に協力的であり、児童がまちの中で安心して過ごすことができている表れであると考えている。また、地域の声として、学校とともに多くの活動にしていきたいという意見も数多く挙げられている。次年度は、学校が中心となって活動をスタートさせ、徐々に地域の活動として根付いていくように取り組みを進めていく。	